

[成果情報名]無側枝性を有する10月咲き二輪ギク品種「千都の風」と「千都の恵」の育成

[要約]「千都の風」と「千都の恵」は、いずれも無側枝性輪ギクに県内在来二輪ギク品種を2回交配して得られた品種で、適度の無側枝性があり摘芽・摘蕾作業の省力化につながる。

[キーワード]無側枝性、二輪ギク、新品種、省力化

[担当]研究開発部、育種科、花き栽培ユニット

[代表連絡先]電話 0744-22-6201

[研究所名]奈良県農業研究開発センター

[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

大中輪ギクは、生産者数の減少により、全国的に生産量が減少傾向にある。その中において、二輪ギクは奈良県の特産品目として有利販売が可能となっているものの、摘芽・摘蕾の労力が大きいため、生産面積を縮小させる生産者が出てきている。そこで、輪ギクでは一般的となってきた無側枝性を導入した二輪ギク品種を育成することにより、産地規模の維持拡大と販売促進に寄与する。

[成果の内容・特徴]

1. 「千都の風」と「千都の恵」は、いずれも無側枝性輪ギクに奈良県内在来の二輪ギク品種を2回交配して得られた品種である(図1)。いずれも春期の摘心後に不萌芽株は発生せず、切り花収量の1~2%程度で頭花が1輪だけとなる切り花が発生するものの、ほとんどの切り花を二輪仕立てに利用できる適度の無側枝性を有する。
2. 「千都の風」は、「愛」を花粉親、中間母本「0710P73」を子房親とした交配から得た10月上旬に開花する白色品種である(図1)。摘蕾節数は上位15節で0~7節、舌状花表面は黄白色(RHSチャートNN155C)、花盤は黄緑(同N144C)で、満開時の頭花径は92mm程度、舌状花数は24枚程度で1列となる(表1、図2)。
3. 「千都の恵」は、「秋日和」を花粉親、中間母本「0710Y54」を子房親とした交配から得た10月中旬に開花する黄色品種である(図1)。摘蕾節数は上位15節で1~10節、舌状花表面は明黄色(同7A)、花盤は黄緑(同144A)で、満開時の頭花径は134mm程度、舌状花数は47枚程度で2~3列となり、内側の花卉がやや短い不整形の頭花である(表1、図3)。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象は、西南暖地の二輪ギク生産者とする。2014年には奈良県内において「千都の風」は12戸、「千都の恵」は14戸で生産が開始されている。
2. 両品種とも出願公表中は奈良県内のみの仮許諾に限定されるが、品種登録後は奈良県との許諾契約により、県外での営利生産も可能である。
3. 両品種とも6月定植の季咲き作型での利用が望ましい。電照抑制栽培では「千都の風」では高所ロゼット、「千都の恵」では花色に赤みが入る問題が生じやすい。
4. 「千都の風」は、夏期に葉先枯れ症を生じやすいため、過乾燥などの土壤水分ストレスを回避するよう注意する。また、「千都の恵」は、冬至芽の発生がやや少ないため、親株数を確保しておく必要がある。
5. 二輪ギクは、1本の茎に2輪の頭花を付けた切り花ギクで、側花が頂花より上に咲くよう段差をつけるのが特徴である。主に生け花用として多くの流派で使われている。

[具体的データ]

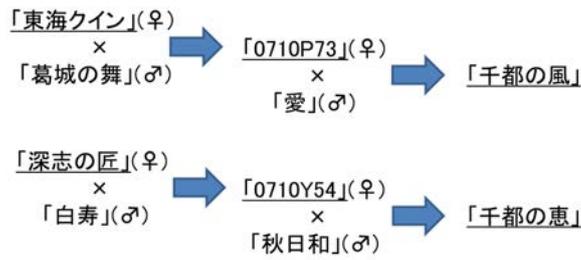


図1 「千都の風」と「千都の恵」の育成系統図

注) 下線は無側枝性を有する品種・系統を示す。

表1 「千都の風」と「千都の恵」の切り花形質と無側枝性

| 品種名 | 平均開花日 | 切り花 | | 花房 | | | 頭花 | | | 無側枝性 | | |
|---------|--------|-----------|----------|------------|------------|----------------------|---------|----------|---------------------|-----------------------------|-------------------------|---------|
| | | 切り花長 (cm) | 切り花重 (g) | 頂花花首長 (mm) | 側花花首長 (mm) | 段差 ^z (mm) | 花径 (mm) | 舌状花数 (枚) | 舌状花表面の色 (RHS) | 上位15節 ^y 摘蕾節数 (節) | 無側枝 ^x 節数 (節) | 全節数 (節) |
| 千都の風 | 10月8日 | 94 | 81 | 117 | 170 | 50 | 92 | 24 | NN155C | 2.7 | 44 | 57 |
| 千都の恵 | 10月13日 | 125 | 142 | 105 | 168 | 58 | 134 | 47 | 7A | 4.8 | 33 | 60 |
| (対照)黄京城 | 10月9日 | 130 | 110 | 115 | 163 | 47 | 94 | 21 | 8A/53B ^w | 12.8 | 2 | 54 |

n=18、挿し芽:2014年5月13日、定植:6月3日(条間40cm、株間10cmの2条植)、摘芯:6月12日、整枝:7月16日(3本/株)

施肥量:N-P₂O₅-K₂O=23-22-21(kg/10a)

z 段差は、頂花基部と側花基部の間の垂直距離

y 上位15節の葉腋のうち、二輪仕立てとするために摘蕾が必要であった節数

x 腋芽が肉眼で全く確認できない節数

w 「黄京城」は覆色品種のため、1次色/2次色を示す



図2 「千都の風」の草姿と頭花



図3 「千都の恵」の草姿と頭花



(仲 照史)

[その他]

研究課題名: 需要開拓と安定生産を可能とするキク新品種の育成

予算区分: 県単

研究期間: 2007~2013 年度

研究担当者: 仲照史、有馬毅、角川由加、小山裕三、印田清秀、廣岡健司、虎太有里

発表論文等:

1) 「千都の風」品種登録出願公表 2013年6月12日(第27874号)

2) 「千都の恵」品種登録出願公表 2013年6月12日(第27875号)